

たくしんNEWS

若水(わかみじ)号

2026年(令和8年)1月号 vol.297



拓伸会 [拓南グループ]

拓南本社株式会社
拓南製鐵株式会社
拓南商事株式会社
拓南製作所株式会社
株式会社西原グリーンセンター

拓伸商事株式会社(大阪)
拓伸商事株式会社(福岡)
株式会社薩南物産
拓鐵事業協同組合

INDEX 4 TOPICS

「鉄の記念日」祭事式／拓南友の会／エコロジーネット安全衛生大会／川上社長(商事)に感謝状／階層別管理職研修「中級編」／沖電工の安全体感装置実学／節酒実践講座／拓伸会合同社員研修旅行で「北海道」「本」「北部」／県法人会ウオーキングキャンペーン／ひやみからウオーキング2025／沖製鉄の同様に拓南製鐵が「事業協賛金」etc.

10 新春特集 「年男・年女」は61人
12 連載「拓南余話」⑧

拓伸会会報(隔月発行)

拓南本社内「たくしんNEWS」編集委員会
〒900-0025 沖縄県那覇市豊川3の2の4 [拓南ビル3F] TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

【若水】元旦未明に初めて汲む水。仏壇に供えてから飲む。『沖製鉄辞典』(研究社)より



令和8年 新年あいさつ

意思疎通の早い グループづくりを

拓伸会(拓南本社)会長 古波津 昇

新年あけましておめでとうございます。昨年、社会情勢がめまぐるしく変動していく中、それぞれの立場で臨機応変に対応いただき、新しい年を迎えることができました。改めて昨年を振り返りますと、

不安定な気候変動による大型台風や線状降水帯の発生、地震の頻発、世界各地での紛争、大規模火災、冬眠しない熊の出現など災害が多い年でした。

また、政治面では日本初の女性総理大臣の誕生という一方、地方の首長の不祥事が多発するなどさまざまな面で特異な一年であった

と思います。

拓伸会では、「健康経営優良法人」も2年目となり、「くるみんプラス」取得が3社。また薩南物産は鹿児島労働局長より「安全衛生優良企業認定」をいただくなどの対外的な評価を得ました。そして、

拓南商事の新社屋が竣工し、さらに、グループの結束を高める事業である拓伸会企業合同の社員旅行も始めました。一昨年に続き電話応対コンクールにも参加、管理職の階層別研修など人材育成についてもさらに注力しています。採用について新卒は一括採用を

継続していますが、新年は、インターンシップや説明会の強化など採用を引き上げることに努めます。システムについても全社一元化し、セキュリティ強化もしっかりと行います。

特にグループが横断的につながるよう、各視点から行動をし、働きやすい意思疎通の早いグループづくりを行います。結びに、安定した一年であることを祈念し、拓伸会や協力企業の皆様にとって良い一年となることを祈念します。

新年あいさつ

足下の改善と将来に向けた改革

拓南製鐵株式会社

代表取締役社長

八木 実



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新年が安心・安全でより良い年になりますよう期待と希望に満ちた思いで、ご家族とともに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、全国的に気候変動が原因と思われる現象により、猛暑や

集中豪雨で観測史上最も高い数値を記録するなど、自然災害や熱中症対策など日常生活でもご苦労された方も多かったことだと思います。

また、建設業界においては人手不足や就労時間の制約などの影響もあり、工事未着工や工事遅延で

鋼材をはじめとした建材需要の回復が遅れ、また、鉄鋼業界も中国の鋼材需給バランス悪化による影響等もあり、生産数量が低迷しました。

そのような厳しい中、社員の皆さんが「安全第一・健康第一」、自分のため、みんなの為、そしてこ

《1頁よ》

家族のためにと尽力し、社は「拓
鉄興疏」の理念の下、1年間社業
を遂行することができました。ま
た、特約店・スクラップディーラ
ー・協力企業・拓伸会をはじめ多
くの関係各位のおかげをもちま
して無事に新年を迎えられるこ
とに感謝申し上げます。

令和7年度方針「危機突破!当
事者意識を持ち県内シェア10
0%を成し遂げる」を掲げまし
た。縮小が予想される鉄筋市場に
おいて、危機意識の徹底で拓南製

鉄の主力商品の鉄筋を死守する
という覚悟を全社員で共有し、実践
することが1000年企業につながる
という趣旨です。

今年、拓南製鉄は創業70周年を
迎えます。創業者や先輩方への畏
敬の念を大事にし、さらに、くる
みんプラス認定等をはじめ社員が
安心してやりがいのある職場作り
に努めます。時代の変化にスピー
ド感を持って対応し、足下の改善
と将来に向けて改革に果敢に取り
組んでいきたいと思っています。

新商品の開発や付加価値商品の
販路拡大と同時に協働ロボット・
遠隔操作の導入等で安全性と生産
性向上につなげたいと思います。

また、BCP(事業継続計画)を構
築し、ESG経営を行い、社会に
必要とされ続けられるよう社員一
丸となって取り組んでいく所存で
あります。

お客様・協力企業・拓伸会の皆様
には、本年度もより一層のご指導
ご協力をお願い致します。

新年あいさつ

域内循環を全うする

拓南商事株式会社

代表取締役社長 川上哲史



新年あけましておめでとうございます。
拓伸会各社の皆様には輝かしい
新年をお迎えのこととお慶び申し
上げます。

この4年間、沖縄県内における
指定廃電気の再資源化が拓南商事
に集中するという局面がありまし
たが、新冷蔵庫再資源化ラインの
立ち上げを踏まえ社員一人ひとりの
努力と協力により、難局を乗り越
えることができました。ここで
改めて、全社員の尽力に感謝申し
上げます。また、令和7年4月に

は琉球セメントが家電リサイクル
事業を開始され、弊社も通常体制
のもと安定的な事業運営を進める
ことができております。

近年、循環型社会の実現に向け
て、再生資源の高度化がさらに求
められています。再生資源を活用
することで素材製造からのCO2
削減を図ることが出来ます。単一
素材化、必要量を供給することが
リサイクル企業に求められていま
す。サーキュラーエコノミーの実
現には、リサイクル企業のみなら
ず製造・流通・行政がつながり、連

携が必要となります。拓南商事は
その一翼を担う企業として域内循
環を全うし、持続可能な地域社会
の発展に貢献してまいります。

さらに、9月には待望の新社屋
が竣工し、無事移転を完了しまし
た。役員・社員一同ますます社業に
励み、皆様のご厚情にお応えして
まいります。

結びに、拓伸会の皆様ならびに
お取引の皆様にとりまして灾りの
多い年となりますことを祈念申し
上げます。

新年あいさつ

挑戦と成長の年に

拓南製作所株式会社

代表取締役社長 奥平 勉



新年、謹んでお慶び申し上げます。
旧年中は、皆様のご支援とご協
力により、多くの試験を乗り越え、
確かな歩みを進めることができました。心より感謝申し上げます。

旧年中は、皆様のご支援とご協
力により、多くの試験を乗り越え、
確かな歩みを進めることができました。心より感謝申し上げます。

旧年中は、皆様のご支援とご協
力により、多くの試験を乗り越え、
確かな歩みを進めることができました。心より感謝申し上げます。

新年あいさつ

事業見直しで心新たに再出発

株式会社西原グリーンセンター

専務取締役 外間一成



新年あけましておめでとうございます。
旧年中は西原グリーンセンター
をご愛顧賜り、深く感謝申し上げ
ます。拓伸会の皆様には、輝かし
い新年をお迎えのこととお慶び申
上げます。

昨年、世界的に隣国間の紛争
が長期化し不安要素が増してゆ
く中で、日本国内においては、外
国人観光客の増加により観光業
のインバウンド需要による活性
化とともに文化の違いによる支
障が出ており、不安を募らせてい
ます。

昨年10月、西原グリーンセンタ
ーは、西原町商工会の創立50年事
業者功労賞を頂戴しました。年度
方針である地域連携を高めること

へは、西原町商工会の創立50年事
業者功労賞を頂戴しました。年度
方針である地域連携を高めること

へは、西原町商工会の創立50年事
業者功労賞を頂戴しました。年度
方針である地域連携を高めること

へは、西原町商工会の創立50年事
業者功労賞を頂戴しました。年度
方針である地域連携を高めること

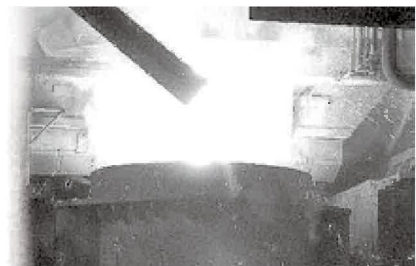
へは、西原町商工会の創立50年事
業者功労賞を頂戴しました。年度
方針である地域連携を高めること

振り返れば、世界情勢や国内経
済ともに不透明で、不確実性の高
い時代が続いております。こうし
た環境の中で、拓南製作所が持続
的に発展し、社会に貢献し続ける
ためには、変化を恐れず、事業と
しての選択肢を広げることが重要
であると考えております。

本年も引き続き、新たな商品や
技術・工法の開発・導入など、新し
い挑戦に積極的に取り組んでまい
ります。

工期短縮に貢献する床構造材
「SIMデッキ」の製造技術を確立
し、安定した供給体制の構築、そ
して木造住宅基礎用「ユニット鉄
筋」の販路拡大を目的として、評定
の取得を推進、また、農業分野で
は関係機関と連携し、新たなハウ

ス工法の開発に取り組むなど、成
長領域への挑戦を続けます。



を賜りますよう、よろしくお願
い申し上げます。

新年あいさつ

伝達力の強化を図る年に

拓伸商事株式会社(大阪)

代表取締役社長 大城秀政

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、米国のトランプ大統領が2期目の大統領選に勝り、自国の経済政策の柱として貿易赤字・財政赤字の解消に向け、追加関税を交渉のカードにしました。関税の引き上げと日米の金利差による円安の影響と相まって各種輸入資材の高騰により、物価上昇等、厳しい経済環境下にあります。

また、米中間では、米国による中国に対する輸入制限や追加関税の応酬は沈静化したかに見えましたが、中国からのレアアース輸出規制強化により対立が再燃し、対立は根強く、中国は「対話による解決を上げつつ」断固たる対抗措置も辞さない」と持久戦の姿勢の模様です。

関税・円安等の要因により輸入品の物価上昇と、さらに今後レアアースの輸出規制強化が実施されると世界的な経済の停滞につながるかねません。それらによる影響

が、拓伸会各社の事業運営を停滞させることが危惧されます。どのような状況でも迅速に情報をとらえ、対応できるような継続して努力してまいります。特に、仕入れる際の産地や加工業者のソース等を増やしていくよう努力してまいります。

一昨年から始まった働き方改革による労働時間の制限による物流の停滞が考えられましたが、大きな混乱も無く、順調に対応できました。また、資材等重量物の物流輸送は、SDGsの観点から優先的に配送先に近い中城港を活用しました。

拓伸商事は常にコミュニケーションの質向上を目標としておりますが、コミュニケーションの不十分さで、伝達力の弱さと認識の違いにより時間を要したりすることがありました。今年は、その強化を図るため、交渉などさまざまな場面での説明や内容が「相手に伝わり、理解してもらえ」る「伝達



力強化を朝・昼のミーティングを通してフォローし合い、強化を図っていきます。そして、社員一人一人の成長とやりがいの向上と社員同士の自由闊達なコミュニケーションでより良い社風・環境づくりを進めていきます。また、引き続き、レスポンスの強化と見直しから発注までのリードタイム短縮で、生産性向上に努めます。

それから、昨年は沖尚野球部が夏の甲子園優勝を果たしました(ばんざい)。私たちも励みに頑張っています。

結びに、ESG経営を基軸に、沖縄やその周辺の社会基盤を支える役割を側面から微力ながら担い続け、拓伸会グループの循環型社会実現に向けた事業活動が継続していきけるよう、誇りと志を持ち、商品やサービスの迅速な提供で地域社会に貢献し続けていきます。新年が、拓伸会各位の皆様や家族の方々にとってより良い1年になることを祈念いたします。

新年あいさつ

提案型営業とスピードを重視

拓伸商事株式会社(福岡)

専務取締役 安東秀徳

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新年が良い年になりますようお祈り申し上げます。

さて、旧年は、相変わらずに国際紛争長期化の終わりが見えず、そ

れに影響されるように経済の停滞が続く、加えて、トランプ関税、円安の影響など建設業界全体にもろに漏れを受けていた状況でした。弊社におきましても大型案件の中止や延期などが多々あり、非常

に厳しい1年でした。しかしながら、インバウンド効果を引き続き好調なことや、日本史上初の女性内閣総理大臣の誕生など今後への変革、経済効果の拡大への期待が高まり、明るい未来



も感じられる年明けとなっております。そのような中で拓伸商事も遅れをとることなく、新しい試みにチャレンジし、活路を見出していく所存です。

異形鉄筋やネジテツコンの販売拡大はもちろんのこと、ユニット鉄筋、S1Mデッキ、ワイヤーメッシュなど拓伸製作所製品の売り込みや薩南物産との密な連携により、九州地区でのネジテツコンを中心に、エポキシ鉄筋やシルバー鉄筋などの販売を拡充していきま。そのためには新しい取引先の拡大や新しい工法の情報収集など

新年あいさつ

正確な情報共有を徹底する

株式会社薩南物産

代表取締役社長 古波津 昇

明けましておめでとうございませ。昨年は、新しい仲間を加え組織を再編成しました。まだ途上ですが、設備や車両の更新に伴い構内レイアウト(即ち仕事の流れ)変更も進めています。

販売対策では、鉄筋に限らず拓伸会で生産しているすべての製品を商材と考へ、福岡の拓伸商事と逐一情報を共有し拡販に努めます。原料面では、更新した車両を最

により、取り扱える建築資材を増やしていく計画です。東京鐵鋼、安治川鉄工、沖繩コーテックならびに取引商社と情報共有をこれまで以上に密にしておくことで、新たな販路チャネルを開拓していきたいと思います。

今年、民間をはじめ大型公共案件も増えていく流れを感じており、提案型営業とスピードを重視してまいります。加えて、沖縄県内の建設業者や加工業者への営業をまめに行うことで取引先を増やしなが、受注の取りこぼしの無いよう活動していくことなど、お客様に求められる会社をい

社内においては3年目を迎える健康経営優良法人の充実、SDGs目標への進捗推進など働く人と地球にやさしい環境づくりを目指し、社会に貢献できる会社を目指します。

最後にありますが、ESG経営を軸に拓伸グループ各社、その他ステークホルダーの皆様と関係を強化し、会社として成長してまいります。

本年も、拓伸会の皆様にはご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

大限活用し、仕入れの強化ならびに高付加価値化により質の良い鉄スクラップや非鉄板の取り扱いも強化します。

また、最優先とする安全衛生面では、昨年3月末に鹿児島労働局から「安全衛生優良企業認定」をいただきまして。これまで以上に注力して働きたい職場づくりに社内一丸となって進めます。

私もが扱っている鉄鋼関連商材は、国際情勢に常に大きな影響

拓伸会や協力企業の皆様また取引先の皆様におかれましては、本年もご指導いただけるようよろしくお願い致します。



「焚き上げ」で安全・健康祈願

「鉄の記念日」祭事式 拓伸会

12

「鉄の記念日」祭事式が12月1日、拓南製鐵で行われた。伏見稲荷神社の鳥居前には、拓南友の会有志の皆さんによる菊の鉢が飾られた。会員企業、協力企業、拓南友の会から約100人が参加し、鉄業の発展、拓伸会の繁栄、全社員健康と安全、家内安全を祈願した。

祭事式は、古波津昇会長が伏見稲荷神社で拝礼し、続いて、拓伸会幹部ならびに各社代表が玉串を奉奠した。創業者である古波津清昇・桂子夫妻の御霊もまつる産業之宮にもそれぞれ拝礼した。その後、古波津会長が挨拶に立った。

古波津会長は「鉄の記念日」ふいご祭り」の祭事を説明する中で、健康、安全に十分気を配るように呼びかけた。

また、創業者のエピソードを紹介する中で、「われわれにはサーキュラーエコノミーというキーワードがある。沖繩の中でできるだけ資源や仕事を回し、その幅を広げ、沖繩に供給していく。沖繩のために仕事をしていることを意識してほしい」と述べた。さらに、「SDGsという考え方のもと、グループ各社がふだんから一丸となつていくことが肝要だ。すべての仕事をみんなで行っている。100年企業を達成するためにも、そのつもりで取り組んでいこう」と強調した。

「焚き上げ」では、一同が見守るなか、拓伸会関係者の人形(ひとがた)に古波津会長が火入れをし、安全と健康を祈願した。

式典は、拓南製鐵の知念正



玉串奉奠



古波津会長による焚き上げ

OB・OGと現役が大いに歓談

令和7年 拓南友の会

11



会長あいさつ・式典風景

元副社長による社訓唱和で締めくくった。

司会は、拓南本社総合企画部企画管理課の瑞慶山尚子課長代理が務めた。

拓南友の会(石川達重会長の総会と懇親会が11月12日、パシフィックホテル沖繩「ワイケレ」で開かれた。総会の後に開かれた懇親会には会員(OB・OG)20人、拓伸会各社の現役役員24人、ゲスト1人、スタッフ8人の計53人が出席し、大いに懇談を楽しんだ。

社歌斉唱のあと、友の会の石川会長がステージに上がり、開会のあいさつをした。「こんなにあくさんの現役役員が皆さん、OB・OGの皆さんとお会いでき、これからの1年も頑張っていこうという元気をもらった。よき先輩方、元気な後輩たち、たくさんの皆さんと一緒に人生を歩める喜びを得て、心から感謝を申し上げる。OB・OGも拓南グループの営業マンである、という思いを胸にこれからも頑張っていこう」と続いて、拓伸会の古波津昇会長があいさつした。

「OB・OGの皆様には応援をいつもいただいております。あらためて感謝を申し上げます。来年は拓南製鐵が70周年を迎え、その後も、グループ各社に節目の年がやってくる。そのたびに、皆様においでいただく機会があると思う。どうぞお元気で、今後とも、現役の役員に叱咤激励、温かい言葉のお声かけなどをお願いしたい」

そして、友の会初代会長の當山清願が乾杯のあいさつをした。

當山顧問は「乾杯」という言葉についてうんちく(カリ・サル・カンペー等)を傾けた後、「グループのますますのご繁栄、役職員の皆様の

令和7年 拓南友の会総会・懇親会



笑顔で再会。新年もぜひ



友の会・石川会長

けた後、「グループのますますのご繁栄、役職員の皆様の

ご活躍、ご来場の皆様のご健康を祈念して乾杯」と発声をし、グラスを高く掲げた。会場は大きく呼応した。

その後、歓談タイムに移り、食事を楽しんだ。やがて、

エコロジィネット安全衛生大会

11年ぶりに開催 拓南商事

拓南商事は10月15、16日、「家電Aグループ全国安全衛生協議会」を開催した。製造本部製造部家電リサイクル課の伊禮正敏課長に寄稿してもらった。

実践的なプログラムに高評価

製造部家電リサイクル課長 伊禮正敏

10月15日・16日の2日間

弊社において11年ぶりとなる「家電Aグループ全国安全衛生協議会」を開催いたしました。本協議会には、全国から管理会社1社、家電メーカー2社を含む計31社・74人の皆様



にご参加いただき、盛況のうちに実施することができました。開会にあたり、主催者を代表してエコロジィネットの青倉社長があいさつをし、続いて、平田要副社長が歓迎の辞を述べました。初日は、参加者を4グループに分けて弊社工場の見学を行い、参加者から多くの質問・意見をいただくなど、活発な意見交換の場となりました。2日目は、弊社家電リサイクル工場でリスクアセスメント勉強会を実施し、参加者を8グループに編成して、作

業手順書を確認しながら現場での危険要因の抽出および改善策の検討を行いました。

現場実習を伴う実践的なプログラムであり、参加者からは「自社の安全活動に即生かせる内容であった」と高い評価をいただきました。

今回は、現在地に移転して30年という節目の年に開催した11年ぶりの協議会となりましたが、弊社の安全衛生に対する取り組みを広く共有するとともに、参加各社との連携強化を図る大変有意義な機会となりました。今後とも安全で健全な職場環境づくりに取り組んでまいります。

川上社長(商事)に

全国大会感謝状

資源循環に貢献

一般財団法人・日本環境衛生センターは第69回「生活と環境全国大会」を10月16、17日に宮城県仙台市内のフォレスト仙台で開催した。

席上、令和7年度生活環境改善功労者を対象に「生活と環境全国大会感謝状」の贈呈式が行われ、沖縄県関係者からはただ一人、拓南商事の川上哲史社長が授与された。生活環境改善功労者は、廃



ステージでは、末吉芳枝副会長、比嘉モリ子理事、拓南本社の瑞慶山尚子課長代理、神山エリさん、平田星来さんによる「かきやで風」で余興の幕が開いた。

続いて、後援機関顧問、金城法恵さん、長田朝達さんが「創業家(作詞)の思いが込められた『四喜舞』をはじめ、『まやーゆんた』『多良間ゆんた』『崎山ゆんた』『みなと』を三線演奏・斉唱し、一同を満喫させた。

また、踊り(あぶじやーま)では、サブライズで、黒島善



古波津会長

10

日本環境衛生センター

棄物・資源循環、環境保全地球環境保全を含む、環境衛生監視業務、ネズミ・衛生害虫駆除等の生活環境改善事業の発展に、顕著な功労のあった方々」と定義されている。全国各地域の行政機関などの推薦を受けた候補者(川上社長はうるま市推薦)の中から選考される。令和7年度は計22人が被表彰者となった。

川上社長は、拓伸会LINEに「これは、拓伸会の先達の実績とこれまでの一致団結した進歩が認められたことだと思えます。引き続き、ご指導をよろしくお願ひします」と感想を寄せた。



當山氏の音頭で「乾杯」



後援機関顧問、金城法恵さん、長田朝達さん



黒島善茂顧問(右)と比嘉理事がサプライズで登場



(左から)平田星来さん、比嘉モリ子理事、神山エリさん、末吉芳枝副会長、瑞慶山尚子課長代理による「かきやで風」

企業短評

マ拓南商事の川上社長に感謝状 日本環境衛生センターが主催する「第69回生活と環境全国大会」で10月16日、拓南商事の川上哲史社長に大会感謝状が贈られた。写真：拓南商事の代表として、環境保全や資源循環の推進、地域社会の活性化など顕著な功績が認められた。資源リサイクルの推進と地域社会への積極的な貢献も評価された。



川上社長は「一人の方ではなく会社の力を集めてこれた先達の方、周りに支えてくださった地域や関係者の御礼です。これからも地域社会へ貢献し、地域とともに成長し続ける企業でありたい」とコメントした。

(上)「琉球新報」11月20日付
(下)「沖縄タイムス」11月20日付



課長から主任を対象とした「階層別管理職研修中級編」を11月下旬に開催し、計69人が参加しました。受講者は、20〜21日または27〜28日のいずれかの日に参加し、2日間・計14時間の研修に取り組みました。

研修の冒頭で、拓南商事の川上哲史社長と拓南製鐵の八木実社長からあいさつがあり、アドバイスや激励の言葉をいただきました。

拓南本社執行役員総合企画部長 上原康志

「中級編」研修を振り返って

課長から主任を対象に 階層別管理職研修「中級編」

拓伸会
11月

拓伸会は11月、会員企業の課長から主任を対象とする階層別管理職研修「中級編」を拓南製鐵本社2階大会議室で実施した(「上級編」は6月終了)。拓南本社の上原康志総合企画部長に「まとめ」、参加会員企業(拓南本社・拓南製鐵・拓南商事・拓南製作所・西原グリーンセンター・薩南物産)から1人ずつ「感想」を寄稿してもらった。

参加者の感想

グループワークで多角的な視野

拓南本社総合企画部企画管理課課長代理 瑞慶山尚子

今回参加しました階層別管理職研修では、拓伸会グループの理念である「拓鐵興琉が私たちの仕事や働き方に結びついており、実践するために具体的な育成やチームビルディングの技術を習得することを目的に、管理者(主任・課長代理・課長)としての普遍的な心得や、今後働く上で指針となる貴重な学びや情報等、多くのことを教えていただきました。

特にグループワークでは、各社それぞれ環境が異なるゆえに課題に対するアプローチや視点が違ったり、いろいろな考え方を率直に語り合い、聞くことができました。

今回の研修で得た知識や学びを日々の業務に取り入れ、職場全体がより働きやすい環境づくりにつなげていくような、引き続き努力してまいります。



反省をし、目標も持てた

拓南製鐵技術部主任 仲里 幸

管理者としての基本スタンスやマネジメント、チームビルディングについて2日間学び、いくつか「あの時は間違っていた対応をしていたな」と思い出す場面がありました。

上司の指示を理解したつ



今回の研修で、現場の声を大事にして良い環境で仕事をさせられるのが目標になりました。

実践したい多くのアイデア

拓南商事 営業部営業二課課長代理 中村慎之介

今回の研修を通じて、自身の行動や姿勢をより意識するようにになりました。管理者としての心得や役割を改めて考える中で、仲間への声かけがチームにどのような影響を与えるのか、また強いチームをつくるために「良い点」「改善すべき点」をどう伝え、モチベーションを維持しながら目標達成できる環境を整えていくか、実践したい多くのアイデアを得ることができました。



部下への細かい対応の仕方

拓南製作所鐵構部与那城出張所所長代理 山野 要

今回、11月20〜21日の管理職研修に参加させていただきました。研修内容はとても素晴らしい、参考になり、気づかされるものがたくさんありました。

まず、部下の成長に関わることで、現在の自分自身は、日々の業務、自分がこなさなければならぬと思われ、管理職としての部下に



自分の意見を明確に伝える

西原グリーンセンター統括部統括課課長 大城優子

「人を磨き、チームを鍛える」「拓鐵興琉」の精神を時代へく大きなテーマとして、部下の育成、フィードバック

もありですが、それは健全なプロセスであると学びました。原理として理解しておくことで、冷静かつ余裕を持って対応できると感じています。

講師からも「一人一人はだれかにとって大切な存在である」という言葉がありました。父母であり、子であり、孫であるという軸を心に留めることで、声かけや意見の違いがあっても、互いを尊重しながらチームを築いていくことを忘れないようにしたいと思います。

.....

して、各メンバーとのコミュニケーションの取り方、各人の動向(情報)をしっかりと把握できるような努め、チームとして機能するよう行動していきたいと感じました。

自分自身についても、現在の業務だけにとどまらず、さまざまなことを勉強・挑戦し、成長していきたいと強く感じました。今回学んだことは、時間が経つにつれて記憶が薄れてしまうと思われ、研修資料を時折読み返し、行動に反映できるよう頑張ります。

.....

難しくなっています。部下を育成し、フィードバックして働きやすいチームをどうつくるかのチームディスカッションでは、それぞれの違う目線、いろいろな考え方があ



安全体感装置室(沖電工)を見学

拓伸会安全衛生管理者等連絡会議

拓伸会は、会員企業6社(現場作業のある拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所、西原グリーンセンター、薩南物産)に加えて拓南本社安全統括室)の総括安全衛生管理者、安全管理者、衛生管理者等の約20人で拓伸会安全衛生管理者等連絡会議を組織し、拓伸会全体の安全衛生管理のPDCA(職場の安全衛生活動を継続的に改善するための計画(Plan)―実行(Do)―点検(Check)―改善(Act)の管理サイクルのこと)を推進している。同会議は毎月1回の定例会議のほか、全国産業安全衛生等への参加や行政機関、各



VR安全体感装置

企業との意見交換等を行う「拓伸会各社の安全衛生活動を支援する能力向上や労働災害等の分析、安全作業の確認等を通して拓伸会ゼロ災害運動に尽力している。拓伸会ゼロ災害運動では指差し呼称の実施が課題になっている中、11月20日に、沖電工(島袋清人代表取締役社長)から同社中城事業所に指

その場にいるような感覚

拓南製鐵製造部 次長 棚原大樹

VR安全体感装置では、さまざまな事故災害事例を仮想空間で疑似体験し、その場にいるような感覚で事故の



「感電・過電流・トラッキング安全体感装置」での体感です。実際に、過電流では、たこ足配線などで多く

目に見えない電気怖さ

拓南製作所 安全管理者 次長 西原 誠



習を通じて、安全確認の重要性を改めて実感しました。フオークリフト追突疑似体験では指差し呼称ができたつもりでしたが、声出し(発声)が足りないことで安全確認不

の電化製品を使用したら多くの電流がケーブルに流れ(コンセントや延長コードは定格容量が一般的に15A・1500W)、装置内では過電流になるとケーブルのビニール製の被覆が燃えて無くなり、銅線の状態のままに

また、トラッキング現象は、家庭のタンス裏などのコンセントにゴミやほこりなどがたまり、湿気を吸い、コンセント部分からスパークが起こって発火します。装置では差し込み用コンセント(ケーブル)から発火し、大きな火の手が上がり、火が消えた後も多くの煙が装置内に充満してしまいました。これが家庭で起こると火の手が壁やカーテンなどに燃え移り、大惨事になると思いました。目に見えない電気怖さを再認識しました。

最後に、ケーブルドラムの取り扱いについて、「巻いたまま6A(600W)以上使うと電線の焼損や火災の恐れがあります。全部引き出して使用してください」との注意表示がありましたので、今後もケーブルドラムの取り

指差し呼称の効果を実感

拓南本社安全統括室 入稲福 伶

11月20日に沖電工中城湾事務所にて、安全体感装置室の視察をしてきました。数ある安全体感装置の中



感電・過電流・トラッキング安全体感装置

でも特に印象的だったのは、指差し呼称学習安全体感装置でした。目で見て指示されたボタンを押した際と、指差

入社19年、10月から配属が変わって課長代理となり、初めて部下を持つことになりました。

と成長・チーム力向上とリーダーの役割の中で印象に残ったことは「コンプライアンス知識」、各種ハラスメント

敬意を払い尊重する重要性

薩南物産営業統括部製品課課長代理 久保雅史



り、今後に生かせるヒントがたくさんありました。また、ディスカッションの中で自分の意見を明確に伝えることの大切さを改めて実感しました。

川上社長のお話の中にあつた事実に基づいた行動・自分の課題を先送りしない」という仕事を上での心構えを念頭におき、AIやテクノロジーが進化する中でどう取り入れ、対応するか学習しながら、チームワークの良い職場づくり今回の研修を生かしていきたいです。



特に、「無視・仲間はずれ・陰口などが典型例のモラルハラスメント項目で、加害者に自覚がないケースが多いことも、相手に敬意を払い尊重する重要性を示していることです。中学時代だったでしょうが、武士の掟(御成敗式目)を習った覚えがあります。その項目に「悪口の咎(とが)」がありました。帯刀している武士たちが、陰口が原因で殺し合いにならないようにする意味合いがあったようです。

600年後の現代社会は、刀からSNSに変化したように思います。発信された他者への批判・陰口が束となり、大きなうねりとなって時には対象者を取り返しのつかない事態に追い詰めかねないこともあります。管理者として、従業員仲間への敬意と配慮。具体的には、部下の意見に最後まで耳を傾け、自身の経験値を元に初めから否定せず、時間に余裕を持って意見交換を行うなどあいさつや会話などのコミュニケーションを通して、会社全体で取り組んでいける職場環境の改善に寄与していきます。

西原GCに事業者功労賞

西原町商工会議所

西原町商工会議所は10月31日、設立50周年記念式典・祝賀会をエリスリー・ナ西原ヒルズガーデンで開催した。席上、会員加入50年事業者功労賞の表彰式が計18社

を対象に行われ、西原グリーセンターも表彰された。式典では、古波津昇社長が登壇し、下地浩之会長から表彰状を受け取った。



森山氏(製作所)に優良若年表彰

(一社)沖縄県建設業協会

(一社)沖縄県建設業協会は11月1日、令和7年度沖縄県建設業改善優良事業所

表彰式を沖縄県庁1階ロビーで実施した。

席上、優良若年建設従業者表彰(計40人)が行われ、拓伸会関係者では拓南製作所の森山大貴氏が表彰された。森山氏は、津波達也会長から表彰状を手渡された。

表彰式後、森山氏は次のように感想を述べた。

「このような賞をいただいた大変光栄でうれしく思います。これからも自分の仕事に責任を持ち、先輩たちに追いつけるよう頑張っていきたい」

忘年会シーズン前に節酒実践講座

拓南本社安全統括室

忘年会、新年会と酒をたしなむ季節を前に、健康経営優良法人の事業を進めている拓南本社健康経営推進委員会・委員長・長嶺巧専務、事務局・安全統括室は11月27日、飲酒がもたらす健康への影響やアルコールについて正しく理解してもらうため県の節酒支援プロジェクトを活用し、節酒実践講座を開いた。管理栄養士の大宜見かおりさんが本社会議室で講演した。参加者(一部)の感想は次の通り。

自分は「危ない族」だった

拓南本社財務部 笹倉小夢

改めてお酒が体に与える影響などについて考えることができました。アルコールパッチテストで自分が「危ない族(アルコール体質判定に使用した簡単ジェルパッチで「飲みすぎ注意」と判定された方は「危ない族」との判定だと分かったので、今後は危ないことにならないように気をつけたいと思います。



これから年末に向けてお酒を飲む機会が増えると思うので、浮かれて飲みすぎないようにお酒と仲良く付き合っていこうと思います。

パッチテストを初体験

システム管理部 田場寛理

節酒実践講座で初めてアルコール体質判定パッチテストを行い、自身のアルコールの相性を知ることができ、これからのお酒との付き合い方を考える良い機会となった。



このうちから「節酒」と正しい食習慣・生活習慣を心がけ、身近な人も巻き込みながら、これからも健康で居続けられるよう努めていきたい。

「節度ある適度な飲酒量」を知っている人の割合は、全国の5割に対して沖縄県は約3割にとどまっています。生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男女ともに全国より高い状態で、肝疾患の死亡率は男性が全国ワースト、女性が全国ワースト2です。アルコール性肝疾患の死亡率は男女ともに全国より高く、男性は全国平均の約2倍となっています。沖縄県健康長寿課HP。

《7頁より》



指差し呼称学習安全体感装置の説明を受ける拓伸会役職員。(左から 製鑄・児玉技術職員、商事・與那嶺安全衛生委員会副委員長、本社・長嶺専務、説明する沖電工安全品質部長・柴引宏之氏)

第6回「北海道」 第7回「本島北部」

拓伸会合同社員研修旅行

北海道へ 心もお腹も大満足の旅

拓南本社業務部次長 川勝かおり

北海道研修旅行は「マテツク石狩支店の視察に始まりました。その日はちようど雪が降り、みんなテンションMAXでした。定山溪温泉では、お姉さん



なが仲間と笑顔で会話をしている姿が印象的で、温かい気持ちになりました。今回は、雪や紅葉、夜景、大、



し呼称を実施しながらのボタンを押した動作とでは、成功率が倍程度、後者の方が数字も高く、指差し呼称の効果を感じられました。1年ほど前に拓南製鐵において開催された指差し呼称勉強会のときにも感じたことですが、小さな事故でもそれを防ぐには指差し呼称が重要だと再認識しました。指差し呼称実施率向上のために、各社でも勉強会、体験教育を開催しても良いのではないかと思います。安全体感装置を活用した指差し呼称は、座学では得られない気づきや危険予知力の向上に役立ちます。今回学んだことを今後に生かしていきたいと思っています。



県法人会連合会 ウォーキングキャンペーン

拓南本社、西原G.C.が参加

一般社団法人沖縄県法人会連合会は「健康経営推進」の一環として6月に引き続き10月の1カ月間、本年度第2回の会員企業対抗ウォーキングキャンペーンを実施した。県内企業の111チームが参加した。今回、拓伸会からは、第1回に参加した拓南本社に加えて西原グリーンセンターも新たに参加した。

拓南本社、西原G.C.各部署の成績は、西原G.C.コース管理チーム第20位、同事務所チーム24位、拓南本社システム24位、拓南本社システム技術ESG安全チーム28位、西原G.C.フロント・アカデミー

ウォーキングの成果を実感

西原G.C.統括部統括課課長 大城優子

西原G.C.は、ウォーキングを通して社員の健康づくりを目的として、コース管理、フロント・アカデミー、事務所の3チーム16人でウォーキングキャンペーンに参加しました。結果は111チーム参加中、コース管理チーム20位(平均歩数9398歩)、事務所チーム24位(8970歩)、フロント・アカデミーチーム37位(8237歩)で、個

人としては、大田司さんが平均歩数1万3353歩で会社内トップでした。常に日常業務で拓伸会健康経営の目標歩数1日6500歩は歩いているので、どれだけ積み重ねられるか楽しみでしたが、1人平均歩数は8868歩で、目標歩数を大きくクリアしました。私事ですが、キャンペーン中に健康診断があり、昨年よ



ひやみかち なはウォーク2025

拓伸会から約20人参加

那覇市健康ウォーキング推進事業である第12回那覇市健康ウォーキング大会「ひやみかちなはウォーク2025」が11月9日に開催され、拓伸会からも、昨年に引き続き拓南本社、拓南商事の社員約20人が参加し、秋空のもと心地良い汗を流した。

今回の企画は、「沖縄の歴史と文化を肌で感じよう。世界遺産(首里城、識名園)や第一牧志公設市場、マチグワ

歩く仲間とかけがえのない時間

拓南商事営業部業務課主任 石川正人

自分がウォーキング始めたきっかけは、特別な目的があつて始めたわけではなく、なんとなく体を動かしたくてのスタートでした。けれど、続けていくうちに、健康や体力の維持以上のものを感

じられるようになりました。歩くことで、心拍の乱れも以前より落ち着いてきた気

りも数値が良くなつていて、保健婦さんからウォーキングの成果が出ていると言われました。音楽を聴きながら歩いて健康になるなら、これからも楽しみながら歩き続けたいと思いました。

社員にもウォーキングが健康に良いという体験を伝えてながら次回もキャンペーンに参加して、健康づくりはもちろんですが、法人会の社会貢献活動である子供たちへのごはん寄付活動にも協力して行きたいと思いま



家族同士の交流も生まれた

今回、子どもたちと一緒に社員旅行に参加しました。快晴の中、「ジャングリア」のアトラクションを思い切り楽しみ、親子で大興奮でした。ホテルでの懇親会では、拓伸会紹介ムービーや、くじ引きでのお菓子のプレゼントなど温かいお心遣いをいただき、とても和やかで楽しい時間を過ごすことができました。



また、家族同士の交流も生まれ、子どもたちが親の職場を知る良いきっかけにもなりました。つたと思います。このような機会をつくっていただき、本当にありがとうございます。今回の旅行で得たリフレッシュを力に今後も業務に励んでいきます。



自然といった北海道ならではの景色にふれ、魚貝類やジンギスカンなど美味しいものもたっぷり堪能でき、「これでもか」というほど満腹できて、心もお腹も大満足の旅になりました。企画・運営をしてくださった関係者の皆さま、ありがとうございました。



(左から)安仁屋歩、大城豊、吉浜寛人



拓伸会の
年男・年女

「午年」生まれは 61人



2026(令和8)年は午(うま)年。恒例の新春特集「拓伸会の年男・年女」を今年もお届けします。拓伸会会員企業の該当者は計61人(昭和29年4人、41年12人・53年9人、平成2年15人、14年21人)。午年といっても新年は「丙午(ひのえうま)」で、ネット情報により「力強いエネルギーで道を切り開く縁起の良い年」「物が順調に進み、事業発展や努力が実を結ぶ年」だそうです。午年生まれの61人にリードしてもらいながら、拓伸会も、力強く躍動感あふれる年にしていきましょう。(各社の写真キャプションは敬称略)

拓南本社は3人です

年男は、安仁屋歩さん、大城豊さん、吉浜寛人さんの3人。中央の大城さんが持つている書は、あえて反対にしているようです。馬の反対「まう(舞う)」、縁起が良いとのこと。ありがたいことにコメントを準備してくれました。「年男として歩みを進めながら、比嘉洗太さん、島元翔生さん、鳥袋亮太さん、上原幹大さん、玉寄良太さん。2階の大会議室で撮影、代表して2人からコメントをもらいました。」

拓南製鐵は18人です

年男年女は次の18人です。伊禮功さん、亀浜和輝さん、杉浦勇さん、鳥袋巧さん、鳥袋亮太さん、嶺井ちひろさん、山岡一成さん、保久村元喜さん、長谷川雅斗さん、喜友名修矢さん、知念智香さん、玉榮力さん、當山雄大さん、比嘉洗太さん、島元翔生さん、鳥袋亮太さん、上原幹大さん、玉寄良太さん。2階の大会議室で撮影、代表して2人からコメントをもらいました。

拓南商事は20人です

年男年女は次の20人です。新城光雄さん、伊禮嘉和さん、西原勇次さん、松竹哲彦さん、仲座光雄さん、神谷強さん、瑞慶覧朝永さん、仲間徳正さん、新垣清さん、喜名政輝さん、名嘉貞治さん、名城謙さん、新垣光謙さん、名波和幸さん、長嶺由太さん、金城良希さん、神山人和さん、高安明江さん、平川秀人さん、金城美羽さん。ボツボツと小さな雨粒が落ちてくる早朝にゲート前

拓南製作所は15人です

年男年女は次の15人です。呉屋ナミ子さん、杉山学さん、屋良尚さん、翁長君代さん、普久原勝也さん、鳥袋雅之さん、国吉真琴さん、喜屋武英さん、末吉常高さん、森

鳥袋巧



「楽しんで仕事に取り組みます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します(安仁屋歩さん)」
「組織運営が馬九行久(うまいく)のように人事を尽くします。本年もどうぞよろしくお願ひします(大城豊さん)」
「旧年中はたいへんお世話になりました。今年も皆様や家族への感謝を忘れず努めてまいります(吉浜寛人さん)」

では仕事は3つに分かれているので、全部できるように早く仕事を覚えたいと思っています(玉榮力さん)」
「社内では中堅になると思います。自分のことばかりでなく、後輩に教える立場になると思うので、頑張っていきたい(杉浦勇さん)」

感謝しています(神谷強さん)」

「年男の年を機に、ふだんより周りに気を配ったり、新しい目標をみつめるなどして良い1年にしたいです(長嶺由太さん)」



(後列左から)知念智香、嶺井ちひろ、杉浦勇、長谷川雅斗、保久村元喜、山岡一成、島元翔生、喜友名修矢、比嘉洗太
(前列左から)當山雄大、玉榮力、上原幹大、鳥袋亮太、伊禮功、亀浜和輝、鳥袋亮太

拓南商事



(後列左から) 仲座光雄、名城謙、平川秀人、神山入和、金城良希、長嶺由太、神谷澄
(前列左から) 高安朝江、松竹哲彦、名嘉貞治、西原勇次、伊禮嘉和、金城美羽、新垣光謙

拓南製作所



(後列左から) 喜屋武英、知花悠雅、松川竜己、翁長君代、呉屋ナミ子
(前列左から) 国古真琴、西川勇輝、島袋雅之、普久原勝也、杉山学、屋良尚



森山大貴

末吉常高



比嘉良斗

銘苅彦志

薩南物産



(左から) 新原佑季子、水川寿裕、西元隆志、房前弘



西元隆志

山貴さん、銘苅彦志さん、比嘉良斗さん、松川竜己さん、知花悠雅さん、西川勇輝さん。
2階の多目的ホールで撮影しました。代表して2人からコメントをもらいました。
「安全に対しても、健康に対しても、いままで通りマイベースで、普通に頑張っているです」(国古真琴さん)
「この1年、ケガなく過ごせ

薩南物産は4人です

年男・年女は次の4人です。
西元隆志さん、新原佑季子さん、房前弘さん、水川寿裕さん。
ありがたいことにコメントを準備してくれました。
「日々、当たり前の業務を焦らず、安全・確実に行うことを昨年以上に頑張りたいと

西原グリーンセンターは1人です

山貴さん、銘苅彦志さん、比嘉良斗さん、松川竜己さん、知花悠雅さん、西川勇輝さん。
2階の多目的ホールで撮影しました。代表して2人からコメントをもらいました。
「安全に対しても、健康に対しても、いままで通りマイベースで、普通に頑張っているです」(国古真琴さん)
「この1年、ケガなく過ごせ

なことにチャレンジし、馬のように駆け上がっていききたいなと思っています」(喜屋武英さん)



以上、新春特集「拓伸会の年男・年女」でした。(残念ながら、拓伸商事大阪と福岡には該当者がおりませんでした)
では、拓伸会関係者の皆様と一緒に、馬に負けない力強いエネルギーで新たな1年を切り開いていきましょう。

「皆様、明けましておめでとうございます。ケガ・病気の無い1年になるように」(房前弘さん)
「これまで通り、真剣、真面目、誠実に仕事に取り組み、私生活では、お利口さんになる1年にしていききたいと思っています」(水川寿裕さん)

拓南製鐵、ジャガーを喜ばす

沖縄こどもの国に事業協賛金

12

ジャガーよ、しっかり食べろよ。

沖縄こどもの国(沖縄市胡屋)が12月5日、動物サポーターの事業協賛金贈呈式を同園で行った。協賛企業として拓南製鐵の古波津昇会長、すこやか薬局の宮里敏行会長が出席した。

つに立ち、「2年前にこの協賛の話が出て、制度の問題等で時間はかかったがやっと実現した。皆さんのつながりを生かしてより多くの方に協力をいただきたい」と述べた。一方、「沖縄こどもの国施設整備基本計画」を策定し、同園の拡張・リニューアル計画を主導的に進めている沖縄

縄市の花城大輔市長は「沖縄こどもの国は、費川高騰で運営に苦慮している。新たな事業展開も予定しており、民間企業や団体と一緒に盛上げていきたい。今回の事業協賛金はたいへん心強く、ジャガーとライオンのために大切にに使わせていただく」と感謝を述べた。

この事業協賛金は、動物サポーターとして特定の動物のエサ代を協賛するもの。拓南製鐵はジャガー、すこやか薬局はライオンに協賛しており、すでに動物舎には応援企業としての社名プレートが設置されている。



「沖縄タイムス」12月17日付

戦争体験記③

宮古島経由で引き揚げ

黒島 善茂

終戦の翌日から状況が一変した。疎開先の所在地基隆市七堵区)に特攻艇「マル

レ(ベニヤ板製の小型ボート、爆薬を搭載の製作所があったため、中国軍が来る



「不撓不屈」をモットーに小生の激励会を兼ね県内一高い於茂登岳に登った七人の猛者(左端が筆者)

という噂が立った。危険を感じたのか同長家族が早々に帰郷した。食糧はストックし、1食もままならない日もあった。

一方、親しくしていた台湾家族の家に掲げられていた日本国旗が下され、長老から日本語で話してはいけないと言われて距離を置くようになった。それでも密かにコリーヤン(モロコシ)などを持って来てくれた。

また、川での漁の仕方や食べられる野草、昆虫類(バッタ、イナゴ、トカゲ等)の食べ方を教えてもらい、大いに助かった。

3カ月も経った頃には幼子のいる6家族のみとなり、1団となって疎開地をあとにし、基隆港近辺に移動した。

母はつてを頼りに造船所の賄いをする事になり、社員の休憩室を仮住まいにあてがって貰った。3度の食事にもありついた。半年ほど過ぎた頃、引揚援護局(?)から帰郷が決ま

ったので準備するよう通知がきた。造船所の技師たちは受注船が完成する約2カ年は帰郷できないとのこと。私たちが無事故故郷に着くことを願い、色々な食べ物やお土産をいただいた。

待機所は岸壁の倉庫で、多くの家族がむしろ(ごき)を敷き、荷物で囲いを作り寝起きしていた。その家族が毎日のように引揚げていく。

すぐにでも乗船できると思っていたが、1週間以上も待たされた。4日目まではいただいた食糧でなんとか凌いだ。その後は、飢えとノミやシラミで筆舌に尽くしがたいほどひどかった。

ようやく乗船することになり、頭から殺虫剤のDDT(現在は製造・使用禁止)を浴びせられ、真っ白になった。船は貨物船で、船底は換気が悪いのか嫌な臭気がこもっていた。ようやく着いたと思ったらそこは宮古島だった。翌早朝に小さな漁船に15家族が石垣へ向け出

港し、夕刻5時頃に無事、石垣港の浅橋へ着いた。家には祖母が待つていたが、向かいの家に爆弾が直撃したとかで家が家も爆風で惨憺たる状況だった。こうした中で生活が始まったのだが、すぐさま食糧難で飢えに苦しむことになる。その後のことは箇条書きにして終えることにする。

・学校へは学力不足のため1学年落とし、5月に編入学。読み書き・掛け算九九ができず、いじめられる。

・終戦3年目に戦死したと思っていた父が帰る。しかし、マラリアに感染しており、完治まで1年を要す。

・中学3年の時、栄養失調のせいか微熱と貧血、筋力低下に襲われる。ストレプトマイシン注射で命を拾う。高2で完治。その間は、得意な短距離走(休むを禁止され、運動音痴となる。

(拓伸会 元名誉会長)

「古琉球時代、馬は明国への貴重な貢品のひとつであった。記録上、308年間(1372〜1680年)に313回も献上(一例・尚巴志は計948頭献上)しています。そもそも、考古学上12世紀から、沖縄で初めて製鐵の火をともしたのは創業者ですが、荒海を越えて初めて馬を沖縄に運び、馬産地になっていたのは、どんな人たちだったのでしょうか。近年の初めに「古琉球ロマン」も。(鈴木)

拓南余話 25

後編 謹賀新年